

第2学年道徳学習指導案

日時 平成16年11月26日(金)5校時

児童 男11名 女26名 計37名

指導者 菊池ひとみ・芦田浩一郎

1. 主題名 勇気をもって 1-(3) 善悪の判断, 勇気
2. 資料名 おれたものさし(東京書籍「みんな たのしく」指導者一部改作)
3. 主題について

【価値について】

第1学年及び第2学年の内容項目の1「主として自分自身に関すること」の(3)に「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う」とある。

この内容は、よいことあるいは正しいことについての確かに判断し、勇気をもって主体的に取り組める児童を育てようとするものである。中学年では1-(4)「正しいと思うことは、勇気をもって行う」に発展し、高学年では1-(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないうで努力する」に統合している。

社会生活の中には、いろいろな力関係がある。その力関係の中で、弱い者が強い者の言うなりになり、正しいことが通らないような社会であってはならない。弱い立場や強い立場の子どもがいる学級集団においても、それは同じことである。より積極的に健康的な自己を形成するためには何事にも積極的に取り組む姿勢が必要となるが、その原動力が勇気である。しかも、それは蛮勇ではなく、よいあるいは正しいと判断できる力を伴った勇気である。正や不正を見極めようとする芽が育ってきているこの時期に、行ってよいことと悪いことが区別できる判断力を養うとともに、どんな立場にあっても、よいと思ったことは進んで行おうとする気持ちを養うことが大切であると考え、本主題を設定した。

【児童について】

毎日の帰りの会で、きまりやマナーを守らない人がいることに関しての発表がいくつか出される。「それはよくないことだ」と実感としてとらえることができる現れであろう。しかし、強い立場の友達に誘われた時には内容を吟味せずに同一行動をとってしまったたり、よくないと思っても注意ができなかったりすることも多い。このような子ども達に、善悪の判断力を高めることや勇気を持って指摘しようとする気持ちを持たせることは、大切なことと考える。

【資料について】

資料「おれたものさし」は、自分の折ったものさしをひろしに押し付け、罪をかぶせようと責め立てているのぼるに、主人公「ぼく」が勇気を持ってその不正を指摘するという話である。弱い立場のひろしに、自分の罪をかぶせようとするのぼる。力の強いのぼるに抵抗できないひろし。物陰から様子を見ている主人公「ぼく」の気持ちの変化。学級内の友達の力関係をよく知っており、強い立場の子に対しては、やはりよいと思うことを主張できずにいる2年生の子ども達にとって、登場人物と自分とを重ね合わせ、気持ちを考えることができる資料である。また、「ぼく」がとった勇気ある行動に共感させながら、主題に迫ることのできる適切な資料であると考えられる。

4. 本時の指導にあたって

導入では、2枚の絵を提示する。花壇に入って遊ぶという同じ行為でも、1年生がやった場合と上級生がやった場合とでは、目撃した自分がとろうとする行動が違うということから、価値への意識付けを行いたい。

展開前段では、おれたものさしを押し付けられて泣き出しそうになっているひろしの姿に以前の自分を重ね合わせ、強い立場ののぼるに対してよいと思ったことを主張するべきか否か思い悩む「ぼく」の気持ちに十分共感させたい。そして、思い切ってよいと思う行動をすることができた、その原動力が勇気であることに気付かせたい。

展開後段では、自分が勇気を出して行動できた時のことを思い出させ、その時の気持ちを考えさせることで、価値に対する自覚を深めたい。

まとめでは、導入で使用した2枚の絵を再び提示し、よいと思うことを進んで遂行することの尊さについて印象付けて終わりたい。

5. ねらい 自分がよいと思ったことは遠慮せず、進んで行おうとする心情を養う。

6. 本時の展開

段階	学習活動及び主な発問	予想される児童の心の動き	教師の支援
導入 5分	1. 2枚の絵を見て話し合う。 ○2枚の絵を見て、みなさんはどう 思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生になら注意できる。 ・上級生は注意したいけどこわい。 ・どうしようか、迷う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2枚の絵を提示し、注意するかどう か、迷いを引き出し、価値への 意識付けを図る。
展開 前段	2. 資料「おれたものさし」を読み、 話し合う。 ○お話を聞いて、心に残ったのはど んなことですか。 ○おれたものさしを持ったのぼるを 見て、「ぼく」はどんなことを考え たのでしょうか。 ○おれたものさしをじっと見つめて いる「ぼく」は、どんなことを考 えているでしょう。 ◎どうして「ぼく」は思い切って行 動することができたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」が、のぼるにもものさしを渡 したところがえらいと思った。 ・のぼるはずい子だ。 ・またのぼるが凄した。 ・先生に叱られるぞ。 ・あやまらなくちゃだめだ。 ・何か言ったら、自分も巻き添えを 食うかもしれない。 ・前に、ぼくも同じ経験をした。 ・あの時は、のぼるに言いたいこと が言えなかった。 ・のぼるは強いから、こわい。 ・のぼるの仲間に、何か言われるか もしれない。 ・ひろしは何もしていないのに、か わいそうだ。 ・どうしたらいいんだろう。 ・何とかしてあげたい。 ・悪いのはのぼるだ。はっきり言わ なくちゃ。 ・自分がよいと思うことをしたい。 ・ひろしを悪者にしたくない。 ・悪いことは許せない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」=よしおであることを知ら せる。 ・子ども達の素直な感想の中から主 人公が変容するところを取り上 げ、ねらいとする価値への方向付 けを行いたい。 ・先生のものさしを折ったのぼるの 行為を見て正直に謝れと願う主人 公の心情を共感的に理解させる。 ・のぼるの言動や、周りにいる仲間 達の様子から、のぼるの人物像を つかませたい。 ・よいと思うことは進んで行くこと が大切だと考えている子どもと、 言い出すことは難しいと考えてい る子どもの見方・感じ方・考え方 を交流させ、主人公の心の弱さへ の共感を深めたい。 ・勇気を持って行動できた「ぼく」 の姿から、ねらいとする価値を把 握させたい。
30分	○のぼるにはっきりと話せた「ぼく」 は、自分自身のことをどう思った でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキドキしたけど言えてよかった。 ・意外と勇気があるんだなあ。 ・あののぼるに言うなんて、すごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書かせることで価 値を実現できた心地よさ味わわせ たい。
展開 後段 7分	3. 自分達の生活を振り返る。 ○迷ったけれど、勇気を出して行動 できた時のこと・その時の気持ち を発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・そうじの時間、ふざけている人に、 思い切って注意をした。 ・とてもすっきりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での子どものよさをを記 録した「いいこと発見ファイル」 をもとに、助言する。
まとめ 3分	4. 教師の話聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分がよいと思う行動をしようと する気持ちを高めさせたい。

資料分析

資料名：おれた ものさし（東京書籍「みんな たのしく」指導者一部改作）

ねらい：自分のよいと思ったことは遠慮せず、進んで行おうとする心情を養う。

場面	のぼるが自分の折ったものさしを、ひろしに持たせたのを見ている「ぼく」	ひろしの姿と過去の自分とを重ね合わせ、ものさしをじっと見つめながら、どう行動するべきか考えている「ぼく」	思い切ってひろしの手からものさしを取り、のぼるに渡す「ぼく」
主人公の心の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・たいへんだ。先生に叱られるぞ。 ・正直にあやまれ。 ・なぜ誰もひろしを助けないんだ。 ・ぼくも前に、同じようなことをされたな。 ・あの時はのぼるに何も言えず、くやしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のぼるは強くて、仲間もたくさんいる。ひろしの味方をしたら、ぼくがいじめられるかも… ・このままでは、ひろしがかわいそうだ。 ・悪いのはのぼるなのだから、はっきり言ってやらなくちゃ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のせいにしようとするのぼるが許せない。 ・今度こそ、はっきり言いたい。 ・ひろしは何もしていないんだ。
外的状況	<ul style="list-style-type: none"> ・のぼるが、じろっとあたりを見まわした。 ・のぼるのなかまたちが、つぎつぎとはやしたてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろしは、おれたものさしをもたされて、今にもなき出しそうにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のぼるはしらんかおをしてもものさしをうけとろうとしなかった。 ・のぼるは、てれくさそうにおれたものさしをうけとった。
児童の心の動き	<ul style="list-style-type: none"> ○またのぼるが壊した。 ○先生に叱られるぞ。 ○あやまらなくちゃだめだ。 ●何か言ったら、自分も巻き添えを食うかも。 ●前に、ぼくも同じ経験をした。 ●あの時は、言いたいことが言えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●のぼるは強いから、こわい。 ●のぼるの仲間に、何か言われるかもしれない。 ○どうしたらいいんだろう。 ○ひろしは何もしていないのに、かわいそうだ。 ○何とかしてあげたい。 ○悪いのはのぼるだ。はっきり言わなくちゃ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分がよいと思うことをしたかった。 ○ひろしを悪者にしたくなかった。 ○悪いことは許せなかった。
発問	○折れたものさしを持ったのぼるを見て、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。	○折れたものさしをじっと見つめている「ぼく」は、どんなことを考えているのでしょうか。	◎どうして「ぼく」は思い切って行動できたのでしょうか。

おれた ものさし

何かが パシーンと われる 音が
した。ぼくが 見ると、ゆかの 上に
おれた ものさしが おちていた。

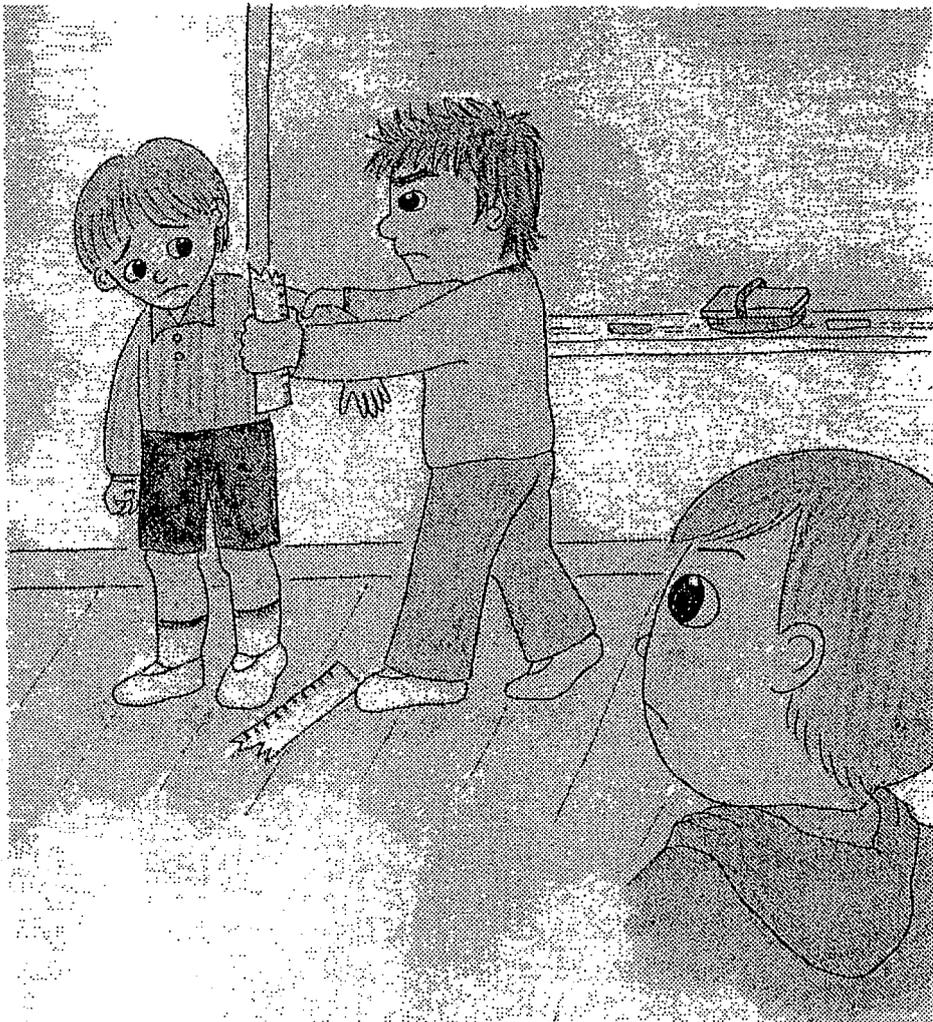
(たいへんだ。先生のものさしだ。)

おれた ものさしを もった のぼるが、
じろっと あたりを 見まわした。

のぼるは、そばに いる ひろしの
ところへ 行った。

「おまえがおったんだろ、これ。」

のぼるは ひろしに ものさしをもたせた。

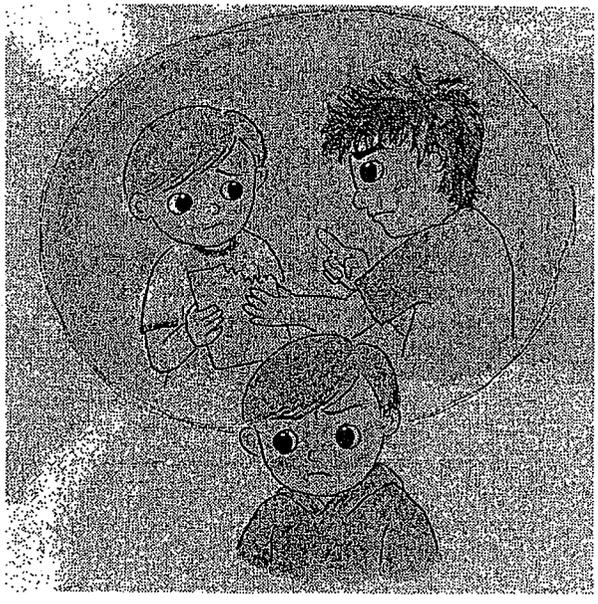
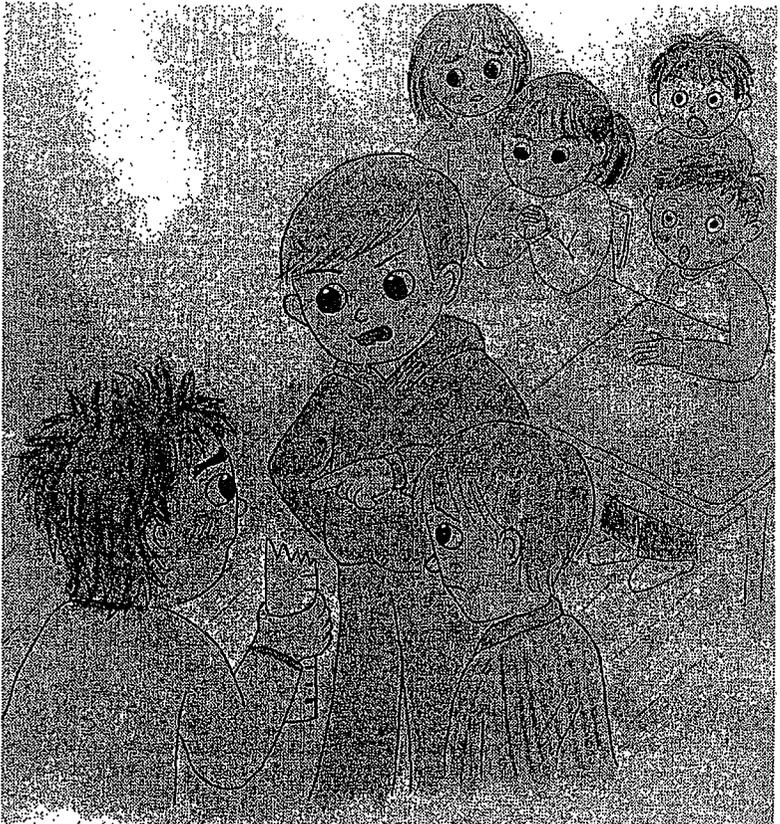


「そうだ、そうだ。ひろしが おったんだ。」
「ひろしが ものさしを おった。」
のぼるの なかまたちが、つきつきと
はやしたてた。

ひろしは、おれた ものさしを
もたされて、今にも なき出しそうに
している。

ぼくは むねが どきっと した。

(あの時と同じだ……。)



あの時も、ちょうど 今みたいに、
のぼるは われた 下じきを ぼくに
おしつけた。みえちゃんの 下じきを
わったのは のぼるだったのに。

あの時 ぼくは、のぼるに 何も言う
ことができなかった。

(ひろし、きみは 何も やって
いないんだぞ。)

と、ぼくは 心の中で 何とも何とも
つぶやきながら、ものさしを じっと
見つめた。

ぼくは ひろしの ところに かけよって、おれた ものさしをとり、何も言わずに のぼるに
さし出した。のぼるは しらんかおをして ものさしを うけとろうと しなかった。

こんどは 思い切って、

「ものさしを おったのは きみだろ。ぼくは 見ていたんだぞ。」
と言って、ものさしを のぼるの かおの前に つき出した。

のぼるは、てれくさそうに おれた ものさしを うけとった。